

飯岡廃寺の最新調査成果

美咲町教育委員会生涯学習課 田中清美
令和8年3月12日 AM10:00～12:00

1、飯岡廃寺の研究史（図1）

A：月の輪古墳の発掘調査と飯岡廃寺

飯岡小学校の校庭周辺および田畑から古代の布目瓦が表採されており、小学校の付近に古代の寺院跡が存在するのではないかとみられていたが、場所は未確定であった。

愛

飯岡小学校周辺の田畑から土採り作業中に単弁一二葉蓮華文軒丸瓦が出土し、飯岡月の輪郷土館に展示されるとともにその瓦が月の輪古墳の発掘記念写真葉書の一枚に加えられる。

1989年に刊行された『角川日本地名4大辞典』33岡山県で飯岡について解説される。飯岡郷の地名は奈良～平安時代に見える。「和名抄」に美作国勝田郡にある一四郷の1つとして見られる。

平城京出土木簡にも「美作国勝田□□（郡飯力）岡□」「米六斗」記されたものが出土している（『平城京出土木簡概報』18）。

2、同書の柵原町の沿革の飯岡郷と長岡郷の一文に「飯岡の崖錐では多数の布目瓦が出土し、近年細弁蓮華文の軒丸瓦が発見されたことから、白鳳期に寺院が建立されていたことが判明した。」とある（p. 1845）。

「美作国勝田□□（郡飯力）岡□」「米六斗」

飯岡郷内に残る寺院・官衙関係の小字名

多門・堂金・堂金道東・主馬の奥・国司江・多聞前・金糞・尺堂下・寺内・大門・塔ノ元・土器免・堂ノ脇・堂ノ西・堂ノ後・寺休ミ

3、鷲山山麓遺跡と飯岡廃寺

鷲山山麓遺跡は背後の鷲山の麓から南に延びる扇状地および河岸段丘上に広がっており、原始・古代・中世・近世の遺物散布地として知られている。飯岡小学校跡地内（北部山側）には陶棺が出土した横穴式石室墳があったが、現在は破壊されたようである。旧飯岡コミュニティセンター南側の水田下から単弁十二葉蓮華文軒丸瓦が、旧飯岡小学校の南・西側の水田・畑から布目瓦や平城宮6663型式系の均整唐草文軒平瓦が採集されており、月の輪郷土資料館に収蔵されている（図4）。

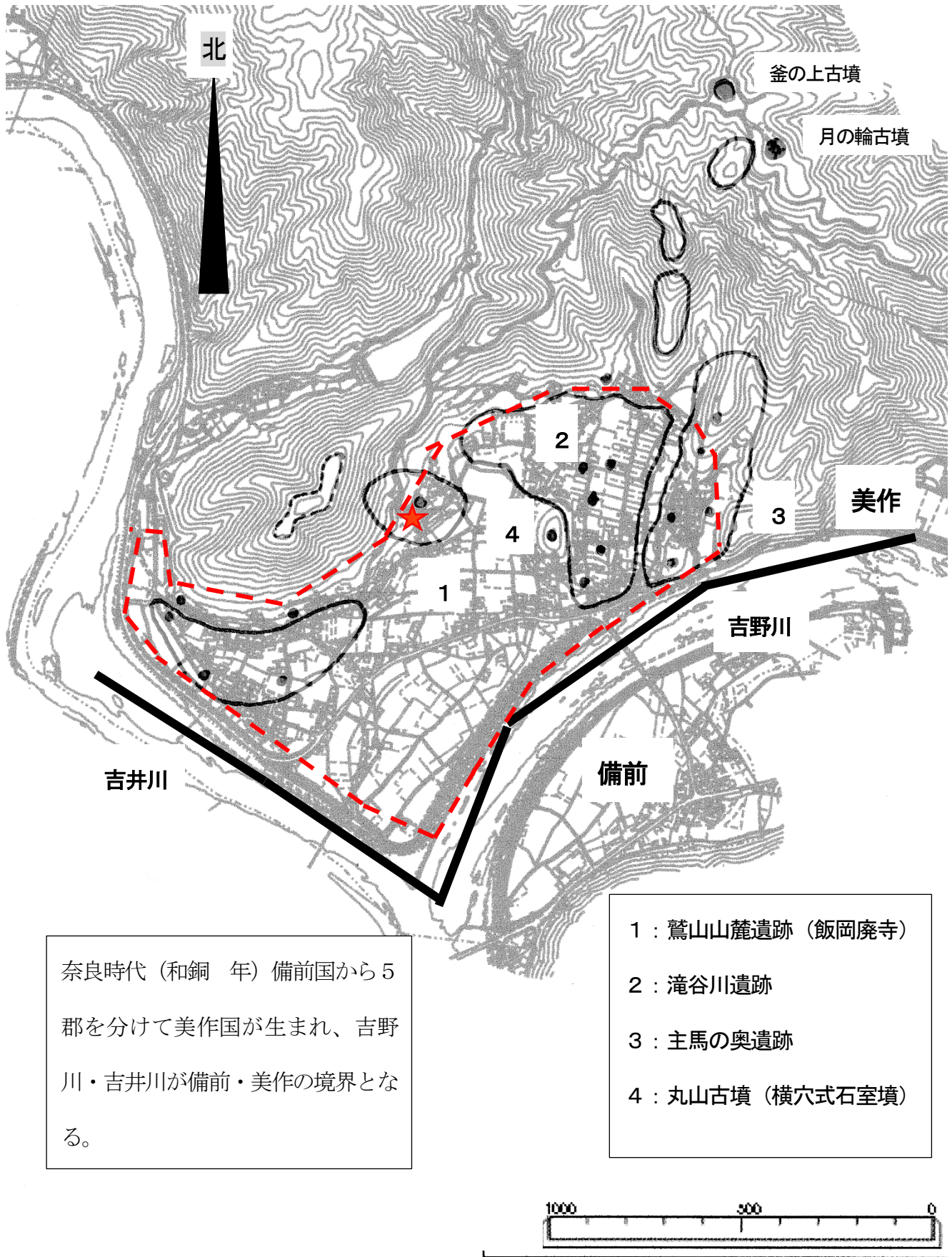


図1 鷲山山麓遺跡(飯岡廃寺)位置図／破線は古代の飯岡郷の想定範囲(吉野川以南は備前国以北は美作国)

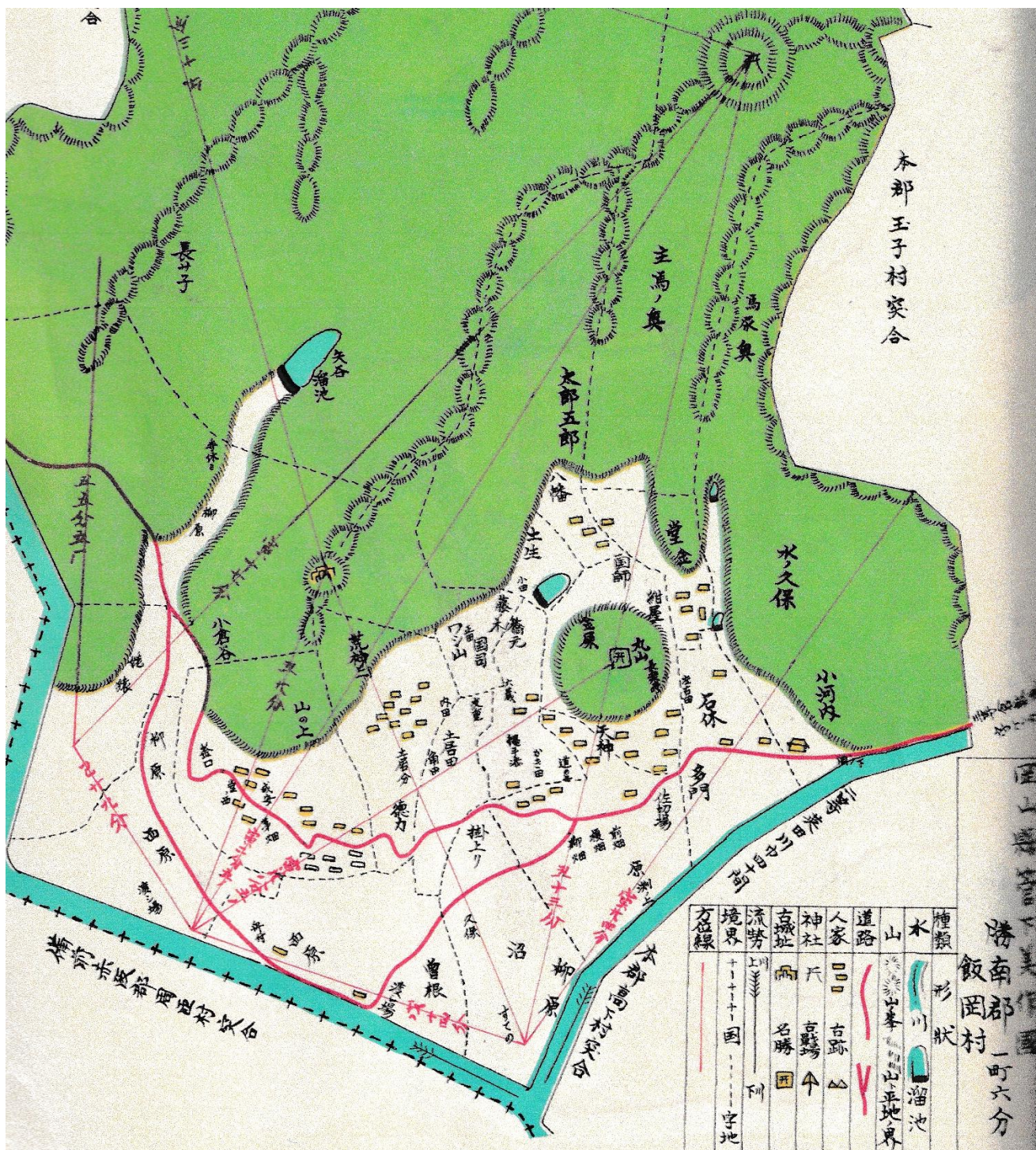


図2 明治12年の古地図（岡山県管下美作国勝南郡飯岡村）

柵原町史編集委員会昭和51年「第6章古地図明治12年の古地図（勝南郡の村々）など藤原の絵地図・久米郡領地別地図（天保）・久米郡東部（大正9）『船第4集高瀬舟古地図など郷土の文化資料』

国師・国司・多門＝官衙（役人・役所に関する地名） 主馬の奥・馬農奥（牧に関する地名）

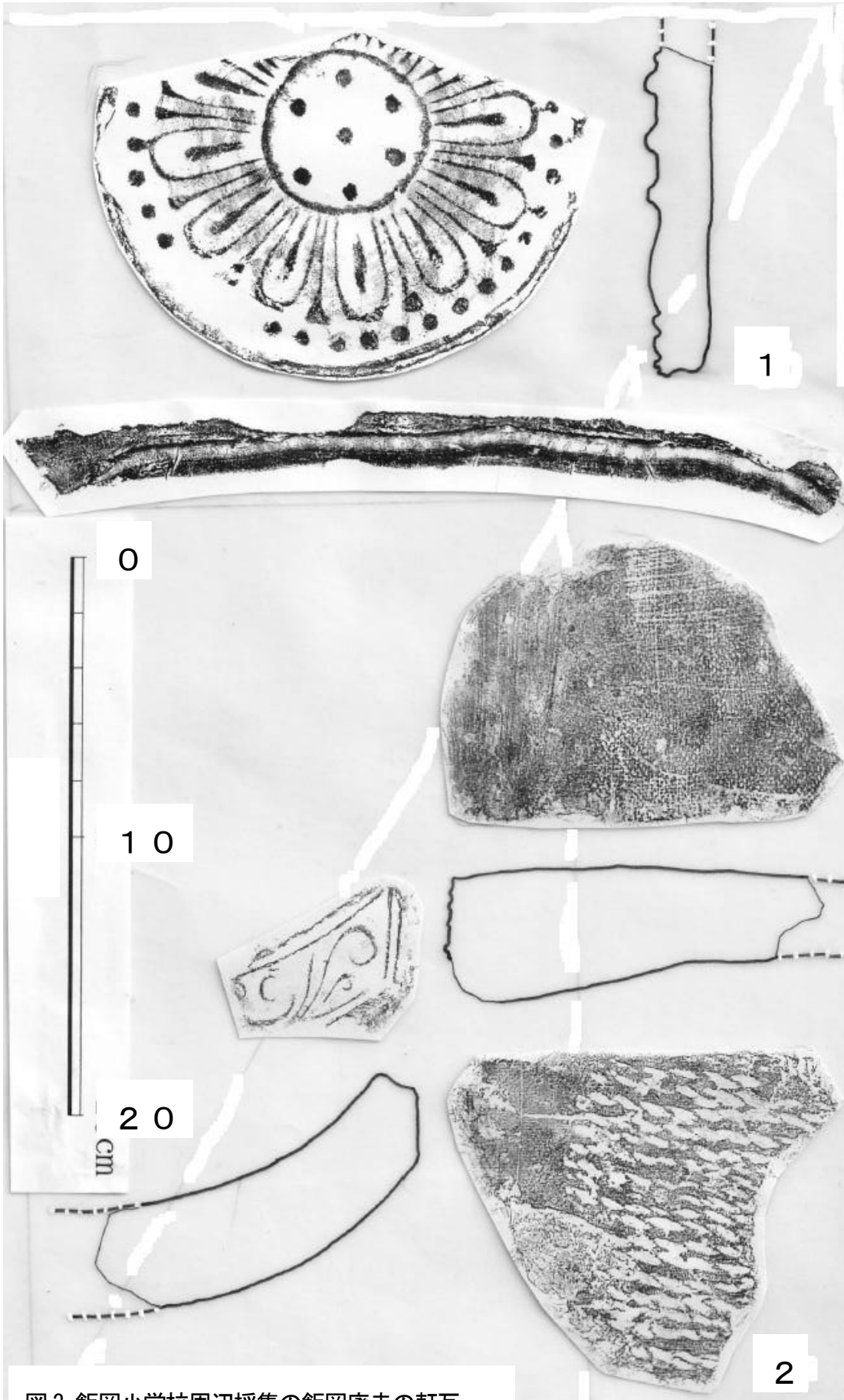


図3 飯岡小学校周辺採集の飯岡廃寺の軒瓦

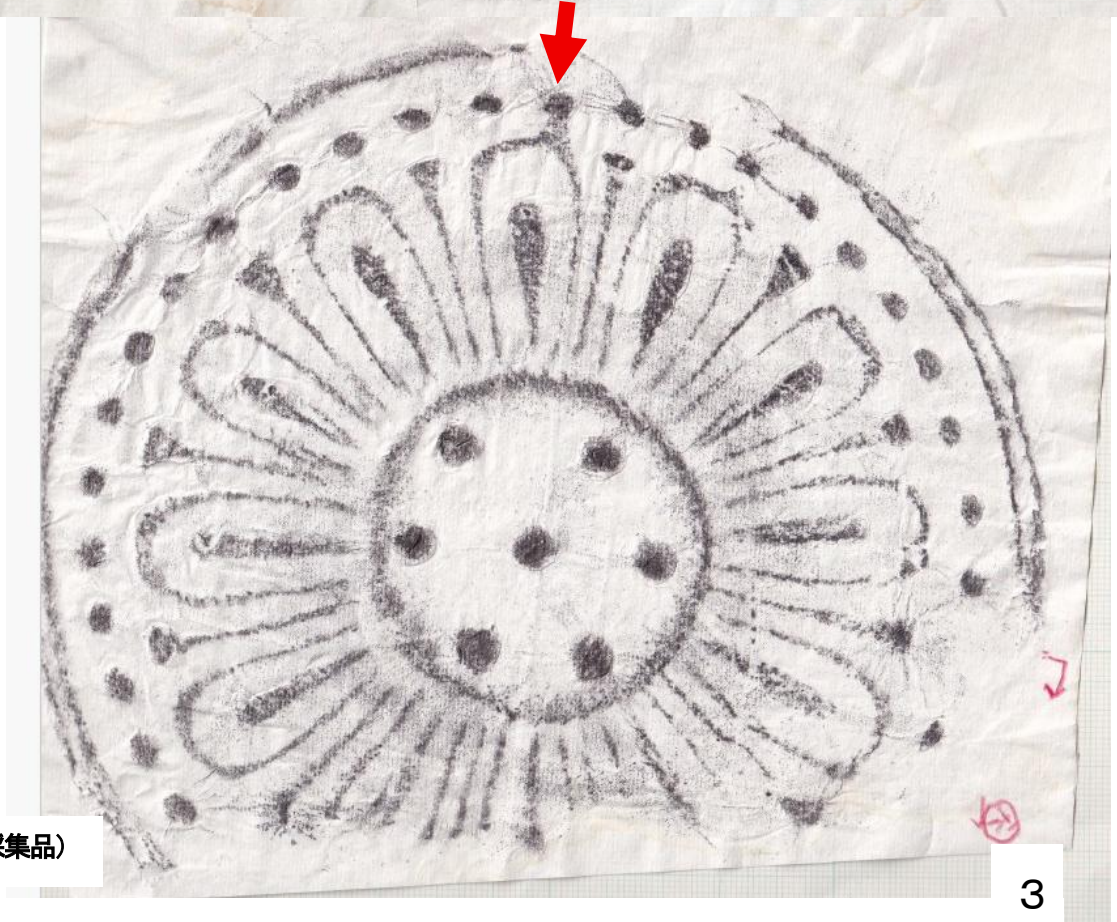


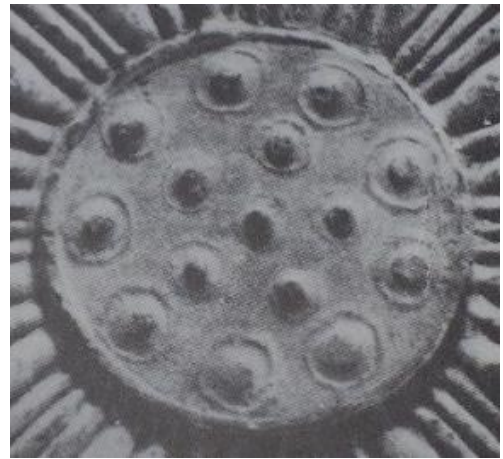
図4 飯岡廃寺採集の単弁一二葉蓮華文軒丸瓦の范傷と瓦范の使用方法 (90度回転)



図5 飯岡小学校周辺（1）および瓦溜まり採集（3・4）の単弁一二葉蓮華文軒丸瓦



9 12 富岡北麿寺 福弁八葉蓮華文軒丸瓦の中房



富岡北麿寺 福弁八葉蓮華文軒丸瓦

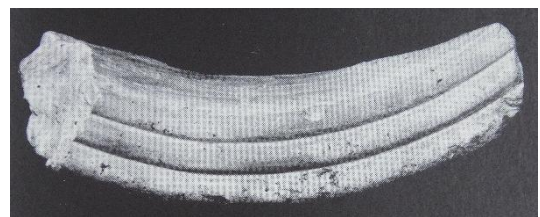


10

富岡北麿寺 単弁八葉蓮華文軒丸瓦



11

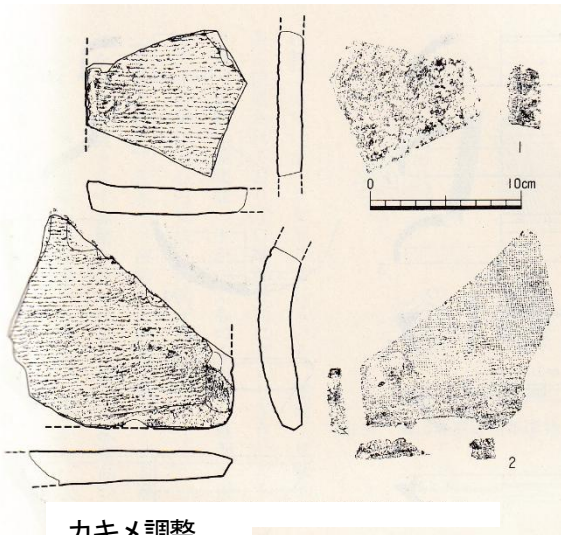


13 富岡北麿寺採集 重弧文軒平瓦

飯岡麿寺の単弁一二葉蓮華文軒丸瓦の出現経過

1. : 富原北麿寺(岡山市富原) 福弁八葉蓮華文軒丸瓦(9) → 単弁八葉蓮華文軒丸瓦(10) → 弓削麿寺素弁九葉蓮華文軒丸瓦
2. : 富原北麿寺単弁八葉蓮華文軒丸瓦(10) が作られた後、飯岡麿寺単弁八葉蓮華文軒丸瓦(11) が作られる(范傷の比較から)。
3. 7世紀後半(白鳳後期)に富原北麿寺の福弁八葉蓮華文軒丸瓦を祖型として単弁一二葉蓮華文軒丸瓦が生まれる。その後奈良時代初期に弓削麿寺の素弁九葉蓮華文軒丸瓦が作られる。

図7 単弁十二葉蓮華文軒丸瓦の出現と変遷(9・10・11) および富岡北麿寺重弧文軒平瓦(13)



カキメ調整

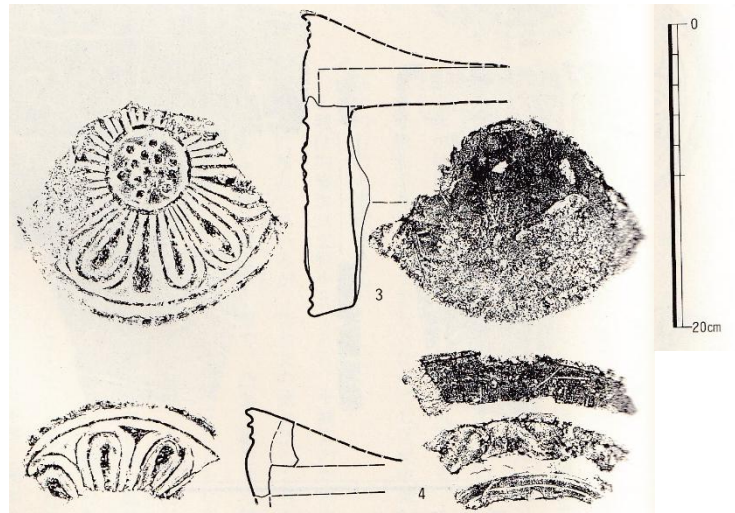
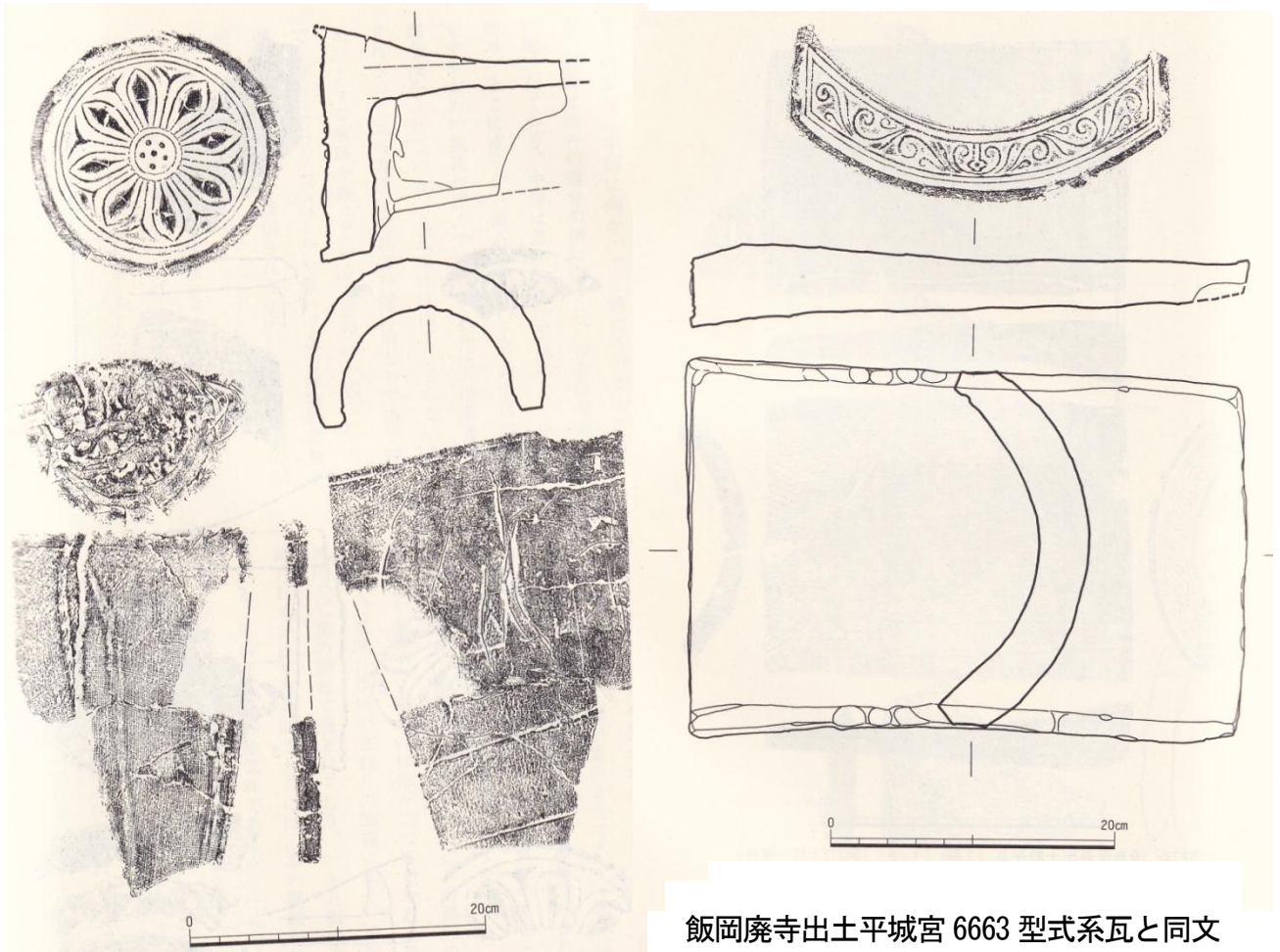


図8 奥池中2号窯採集平瓦（左図）、須恵廃寺出土単弁八葉蓮華文軒丸瓦（右図）[湊 哲夫・
亀田修一 2006 『吉備考古ライブラリィ⑬吉備の古代寺院』]吉備人出版より（図9も同じ）



飯岡廃寺出土平城宮 6663 型式系瓦と同文

図9 須恵廃寺（瀬戸内市）単弁八葉蓮華文軒丸瓦および平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平瓦

須恵廃寺と飯岡廃寺の共通点
立地ともに吉井川の流域に位置している。創建期が白鳳時代で、伽藍が完成するのは平城宮 6663 型式系軒平瓦が登場する奈良時代前半頃。瓦類は邑久古窯址群で生産されて、吉井川の水運で飯岡に運ばれた。

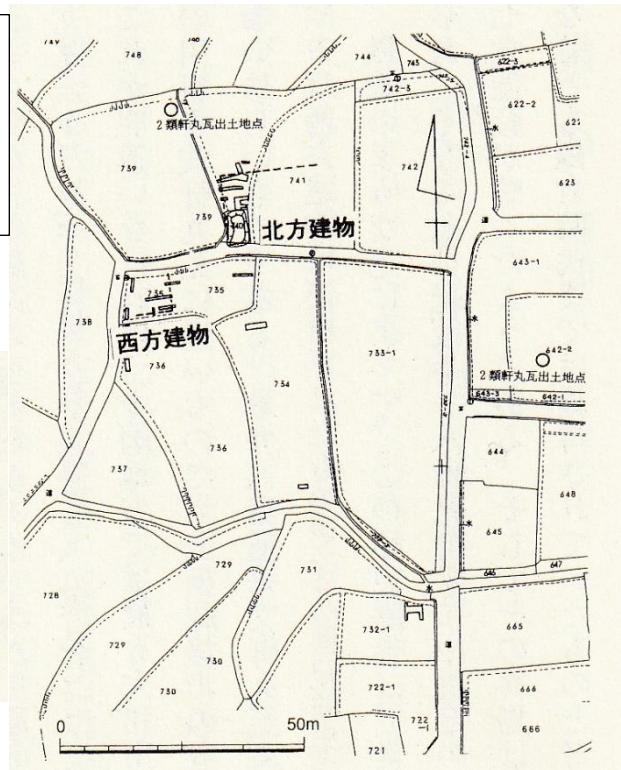


図 10 須恵廃寺伽藍配置 [湊・亀田 2006]

1 : 素弁七葉蓮華文軒丸瓦、2 : 無文軒平瓦、3 : 単弁八葉蓮華文軒丸瓦、4 : 川原寺式軒丸瓦、5 : 単弁八葉蓮華文軒丸瓦、6 : 単弁八葉蓮華文軒丸瓦、7 : 平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平瓦、9 : 巴軒丸瓦 (鎌倉時代) ※創建期 : 1 + 2 (7世紀中頃、※奈良時代前半 : 5 + 7

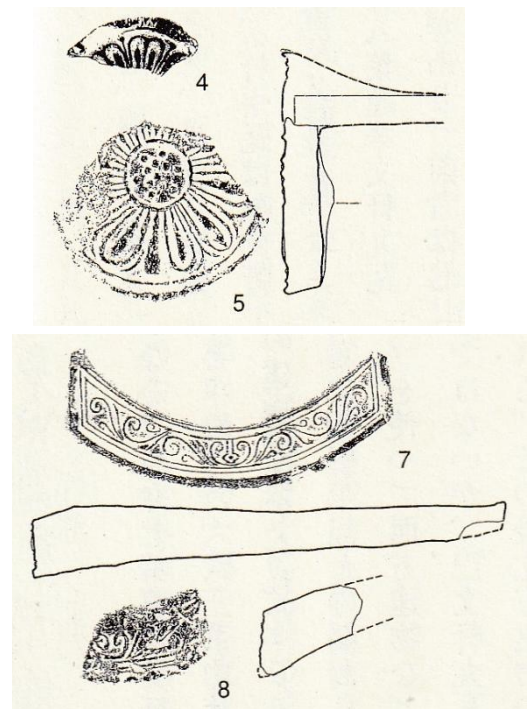
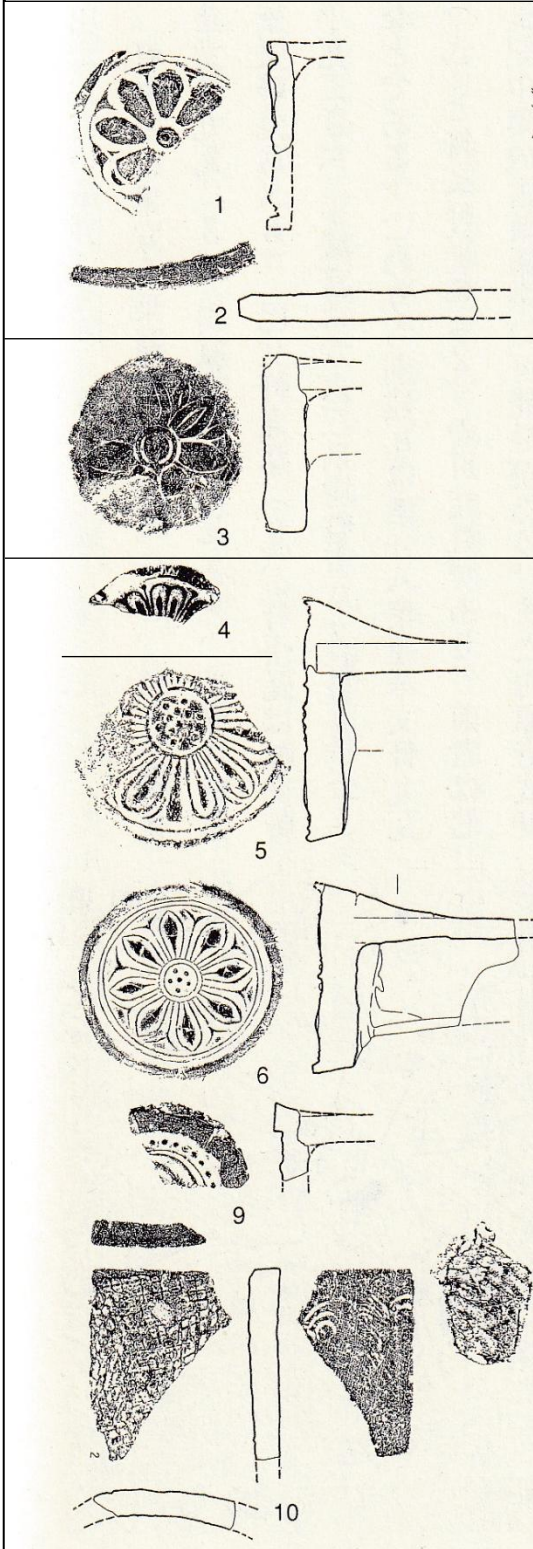


図 11 須恵廃寺出土瓦類 [湊・亀田 2006]

まとめ

飯岡地区は吉井川と吉野川の合流地点を望む位置にあり、古墳時代中期初頭（5世紀初頭）の月の輪古墳が飯岡および河川の合流地点を望む位置に築かれていることから水運の要衝地と考えられる。

古代の飯岡地区は美作国勝田郡飯岡郷の範囲内にあり、白鳳後期（7世紀後半）頃に在地の有力者が寺院の堂を建立したようである。創建時の軒先瓦は単弁一二葉蓮華文軒丸瓦および無文軒平瓦と考えられる。単弁一二葉蓮華文軒丸瓦の同範瓦が備前国津高郷の富原北廃寺から出土しており、范傷から見て飯岡廃寺の単弁一二葉蓮華文軒丸瓦に先行して作られた可能性が高い。富原北廃寺の複弁八葉蓮華文軒丸瓦および単弁一二葉蓮華文軒丸瓦は外区が珠文のみである点が共通することから前者に次いで後者が生まれたことが考えられる。複弁八葉蓮華文軒丸瓦の中房の蓮子の数が6：9から次の単弁一二葉蓮華文軒丸瓦で7個に簡略化されている。同様な状況は須恵廃寺の川原寺軒丸瓦（破片）から単弁八葉蓮華文軒丸瓦への在り方とも似ている点である。また、飯岡廃寺ならび須恵廃寺では創建期の軒先瓦が素弁七葉蓮華文軒丸瓦や単弁一二葉蓮華文軒丸瓦と組む軒平瓦が無文軒平瓦であること、平瓦の中に邑久窯址群の奥池中2号窯から採集されたカキメ調整されたものや格子・斜格子タタキ整形された須恵器工人の手によるものが見られる点も共通している。飯岡廃寺の瓦溜まりから採集された平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平瓦の中心飾りには、須恵廃寺の同文の軒平瓦と同様な珠点があるもので、奈良時代前期に属するものと考えられている。

つまり、飯岡廃寺および須恵廃寺のような創建が白鳳時代の後期あるいは同末期までさかのぼる寺院で、平城宮 6663 型式系の均整唐草文軒平瓦が出土するものは、寺院の建物が全て建てられて伽藍が完成したのは奈良時代後期の初めころ750年以降と考えられるのである。

一方、須恵廃寺では5：単弁八葉蓮華文軒丸瓦と7：平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平瓦がセット関係とみている。外区に珠文がない点や蓮弁の数が異なるが、平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平と組み合うかどうか躊躇する。

「美作国勝田□□（郡飯力）岡□」「米六斗」

飯岡郷内に残る寺院・官衙関係の小字名

多門・堂金・堂金道東・主馬の奥・国司江・多間前・金糞・

尺堂下・寺内・大門・塔ノ元・土器免・堂ノ脇・堂ノ西・

堂ノ後・寺休ミ

現在の飯岡地区は奈良時代には美作国勝田郡飯岡郷と呼ばれていたことが平城宮出土木簡から解っている。

また、今回の鷲山山麓遺跡の試掘調査で検出した飯岡廃寺の瓦溜まり遺構により、旧飯岡小学校の敷地内の西部から西側の民有地にかけて寺院址が存在する可能性が高くなった。加えて飯岡地区に残る小字名も古代の飯岡廃寺の存在を裏付けている。一方、滝谷地区には主馬の奥・馬農奥という地名や令和7年度に滝滝川・主馬の奥遺跡で

道路建設に伴い実施多発掘調査では奈良時代後半頃の規模の大きな柵列の一部を検出し、ここが古代の牧であった可能性が高くなった。さらに国司・国師などの地名は都から派遣された書記官・国師（国内の寺院を監督し、僧尼を教導した仏教界の高官）が居たことを示唆している。

飯岡廃寺の堂塔については全く解らないが、一部の平瓦に付着した赤色顔料（ベンガラ）から柱の表面が赤色に塗られていたことが判明している。

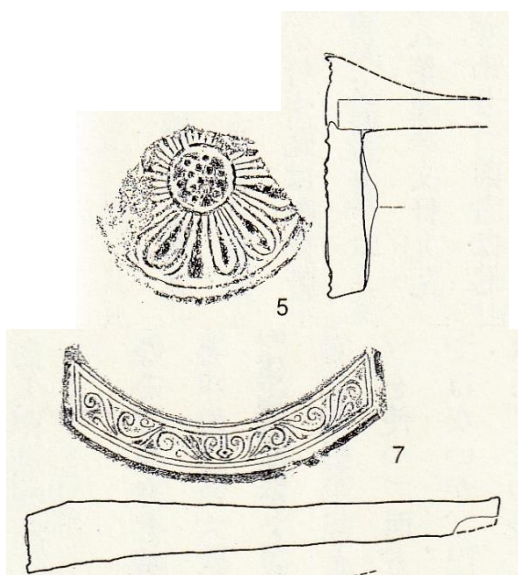


図12 須恵廃寺平城宮 6663 型式系均整唐草文軒平瓦に組む単弁八葉蓮華文軒丸瓦

